



町民文芸

只見短歌会

三月詠草

大塚栄一 指導

古川 英子

クロッカス膨らむ庭を巡り終へ叔母を看取ると朝早く出づ

吉津 政枝

若くして望み半ばに逝きし子の学友達は還暦迎ふ

馬場 八智

亡き人や病む人ありて集落は空きし家屋の増えきて寂し

関谷登美子

病棟で眺むる空の雲の様綿菓子好きな孫の顔浮かぶ

渡部ゆき子

平凡な暮しが一番幸せと被災の人らの言葉胸打つ

五十嵐夏美

勢ほひて燃えろしおんべ崩るれば餅焼く人ら声上げて散る

目黒 富子

雪折れの桜の枝を分け合へば咲かせる時期がそれぞれ違ふ

渡部ヨリ子

泊りに来し幼き孫が家なかの一人遊びに飽きて夫呼ぶ

新国 洋子

回診の足音聞こえ無雑作に指もて髪の流れを直す

(出 詠 順)

只見俳句会

四月例会

目黒十一 指導

一 灯

待つよりも歩いて春に逢いませよ

流感や会話どちらもマスクして

邦 男

母と娘の受賞の便り二月尽

唱崎一夜の雨に山笑う

恒 夫

信号のやたらに多く雪解風

宿坊の廊下の軋み冴返る

吉 児

ご神木社殿を壊し春疾風

春寒や寂として家裁控室

隆 堂

雪解けの色を濃くして支流たり

薄氷や跳ぶか跨ぐか一思案

邦 夫

彼岸入り光明真言暗誦す

春愁や辞典も古くなりにつけり

生きている事が幸せ土筆生う

早春や山の御堂に医者の声

リウコ

笑 羊

春雷やカレーの匂う保育園

暖かや良きことばかり母に言う

都

春寒し薬の箱にすき間なく

着物丈すこし短し雛祭

洋 子

曲屋という吹きだまり春一番

目立つまじと咲く春蘭の薄緑

一 穂

肉じゃがのほっこり煮えて春嵐

学士証神に供えて春麗ら

礼

春の日や吾が影を踏み文具屋へ

春光や日がな除雪のダンパー

又 壱 歩

黙黙と春宵黙黙と一人

春の風邪マスクの下の無精髭

雪の顔優しくなりて村包む

トタン屋根色それぞれに春来たる

修 一